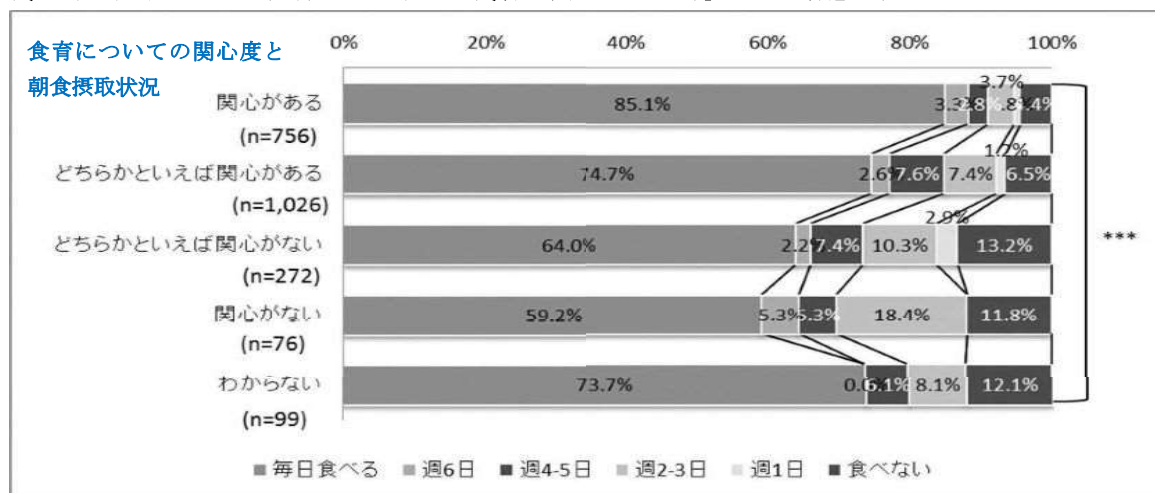


第3章 設問間のクロス集計結果および検定結果

1. 食育についての関心度との関連(クロス集計)

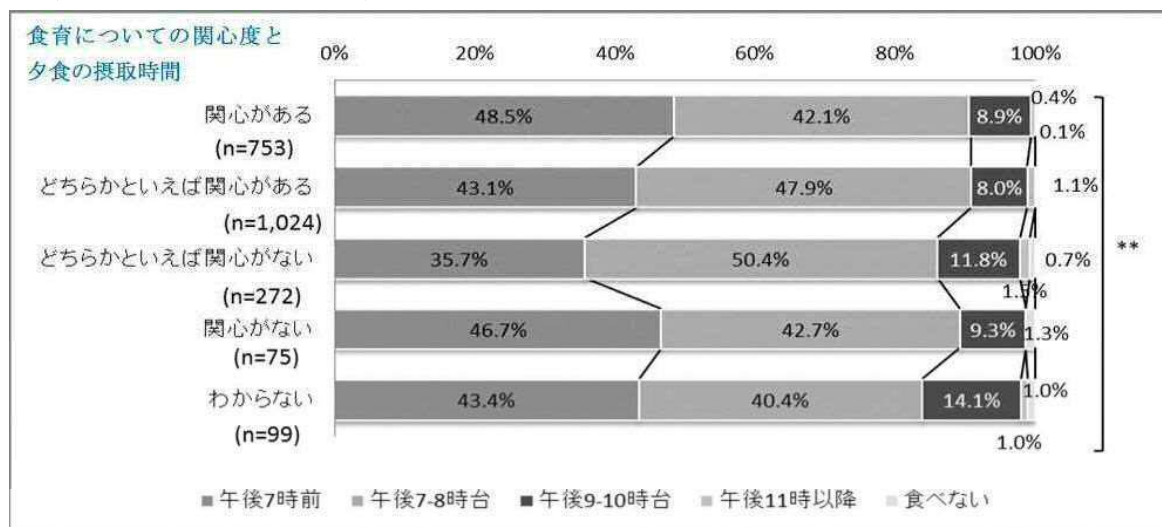
1) 食育についての関心度と朝食摂取状況

「食育に関心がある群」では、朝食を毎日摂取しており（85.1%）、「食育に関心がない群」では、朝食を毎日摂取している割合が59.2%と「食育に関心がある群」に比べ有意に低いことがわかりました。



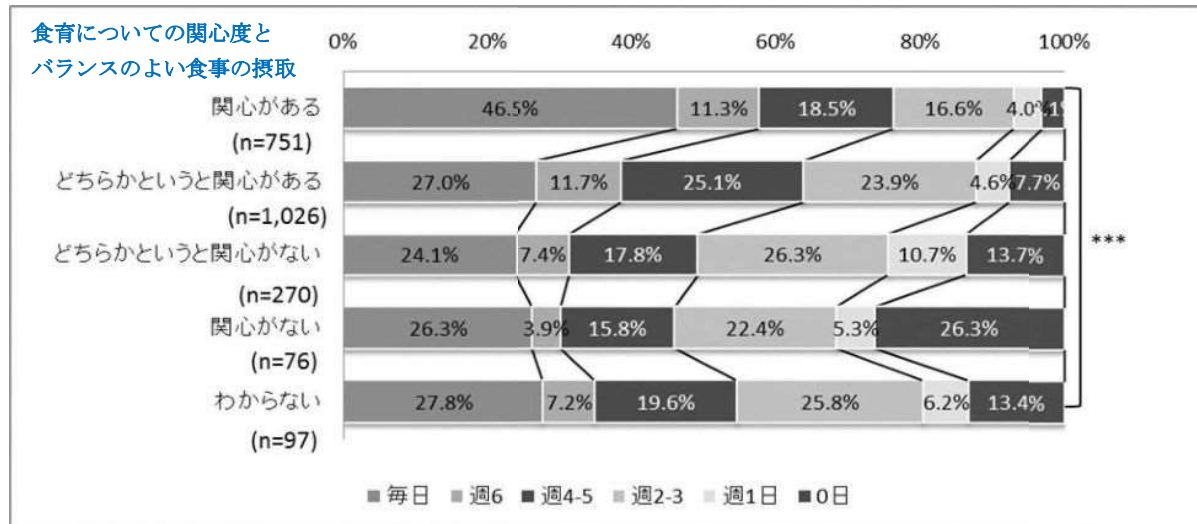
2) 食育についての関心度と夕食の摂取時間

「食育に関心がある群」と「食育に関心がない群」の両群に顕著な差は見られませんでした。



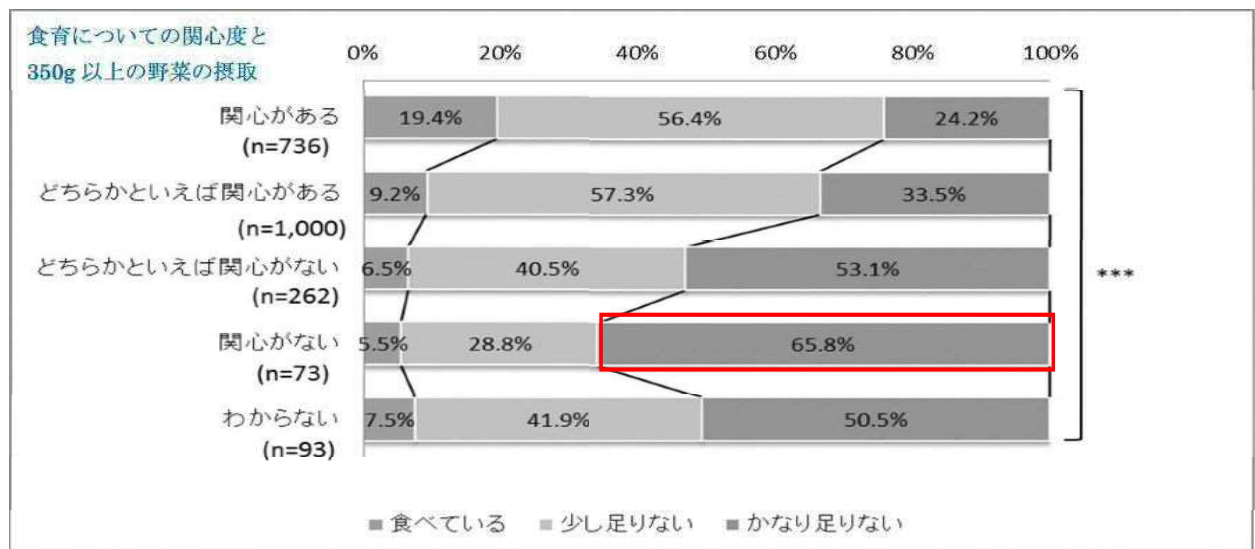
3) 食育についての関心度と主食・主菜・副菜（バランスのよい食事）の摂取

「食育に関心がある群」では毎日バランスのよい食事を摂取しており（46.5%）、他の群に比較すると有意に高い差が見られました。また、「食育に関心がない群」において、バランスのよい食事を摂取している日が週に一度もない（0日）割合が26.3%と、高い結果が見られました。



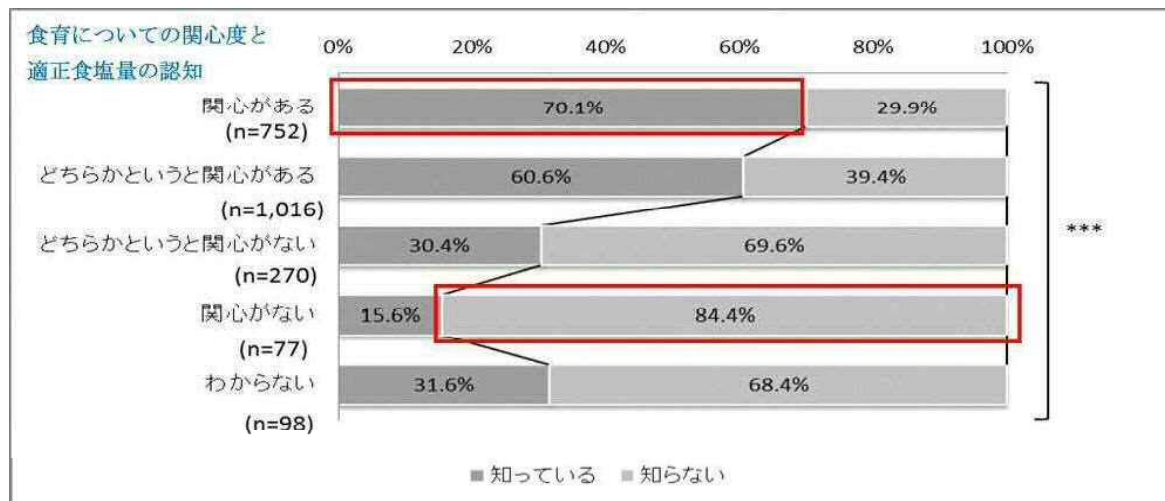
4) 食育についての関心度と350g以上（推奨量以上）の野菜の摂取状況

「食育に関心がある群」では350g以上の野菜を摂取している割合が19.4%と高く、他の群に比較し有意に高い傾向がみられました。一方、「食育に関心がない群」では、野菜の摂取量がかなり足りないと回答した割合が65.8%で、「食育に関心がある群24.2%」と比較して有意に高いことがわかりました。



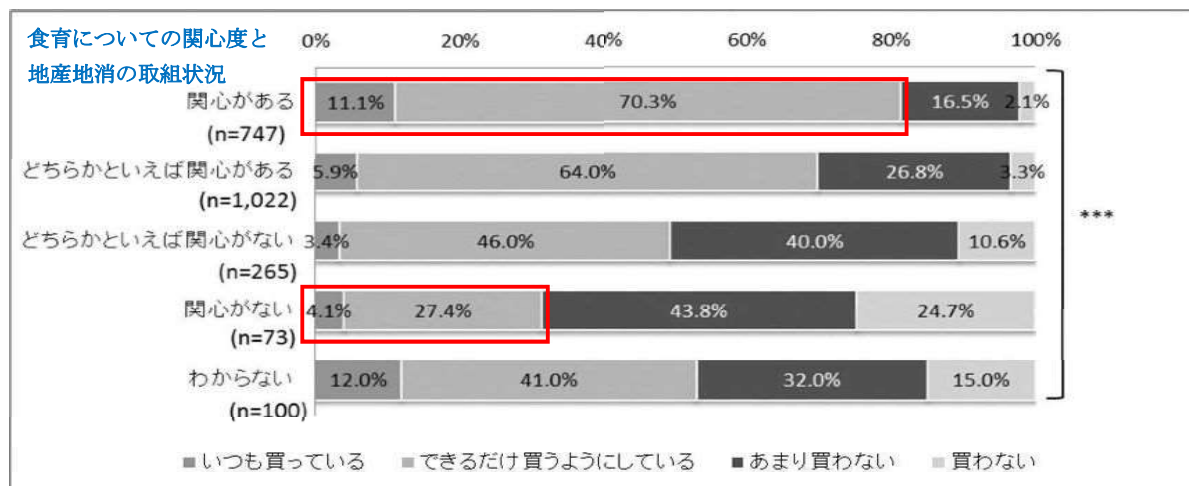
5) 食育についての関心度と適正食塩量の認知

「食育に関心がある群」では適正な食塩摂取量を認知している割合が70.1%と顕著に高く、「食育に関心がない群」(15.6%)との認知度に有意に差があることがわかりました。



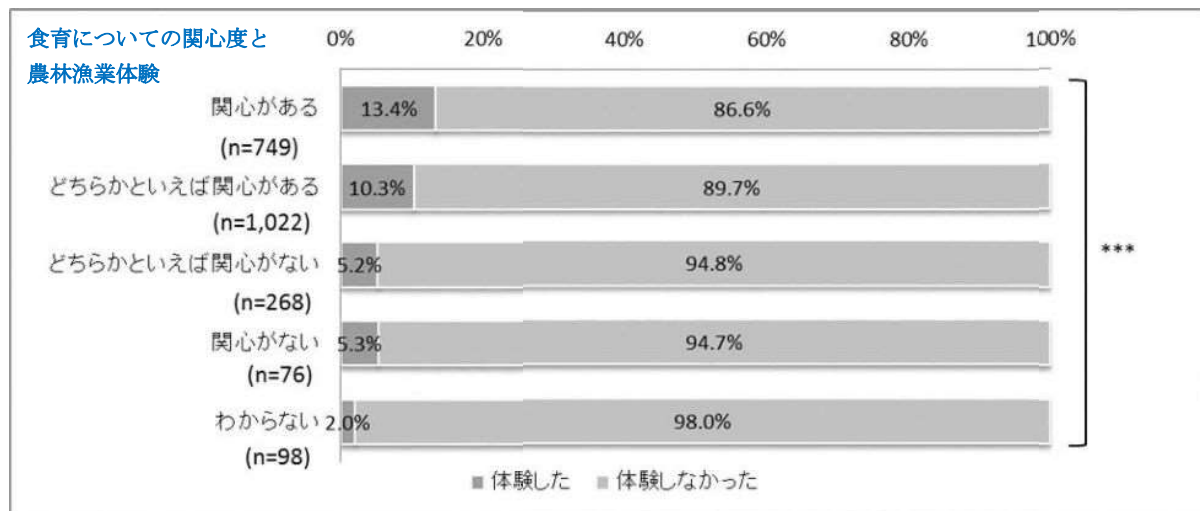
6) 食育についての関心度と地産地消の取組状況

「食育に関心がある群」では北九州市内産や福岡県産の食品を購入する割合(「いつも買っている」+「できるだけ買うようにしている」)が81.4%と、「食育に関心がない群」の31.5%に比較して有意に高い結果がみられました。



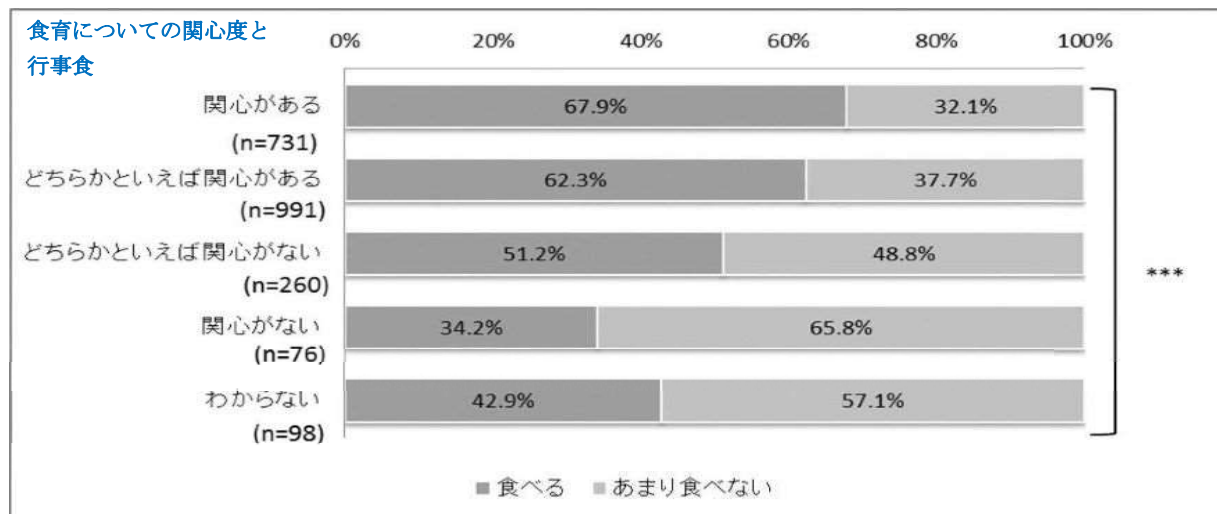
7) 食育についての関心と農林漁業体験

「食育に関心がある群」では、この1年間で農林漁業体験をしている割合が13.4%と「食育に関心がない群」5.3%や「どちらかといえば食育に関心がない群」5.2%より高い傾向が見られました。



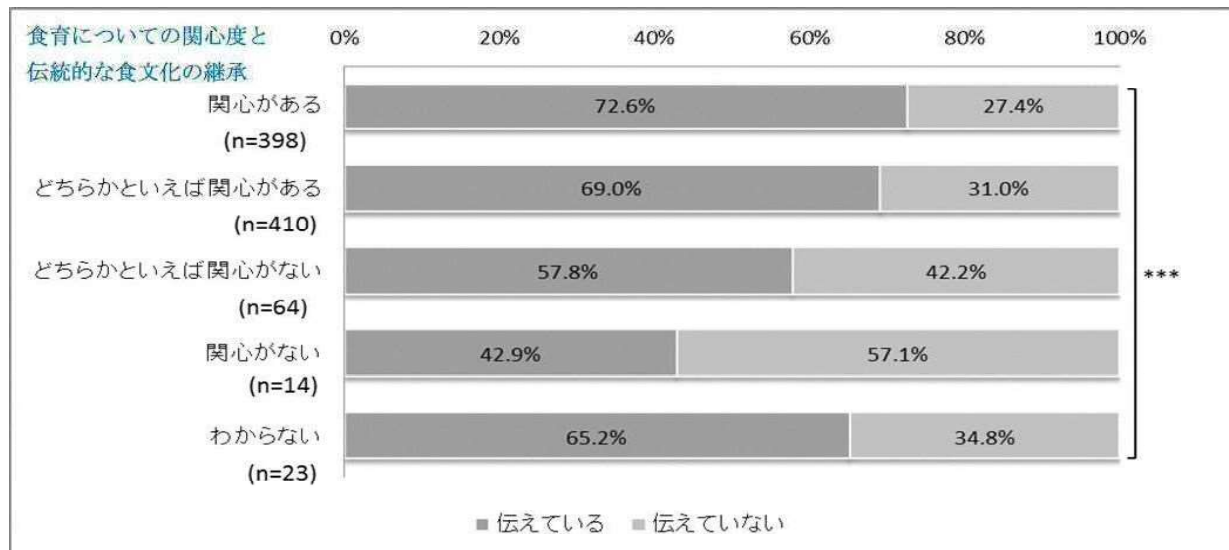
8) 食育についての関心度と行事食

「食育に関心がある群」では行事食を食べる割合が67.9%と、「食育に関心がない群」の34.2%に比較し有意に高いことがわかりました。



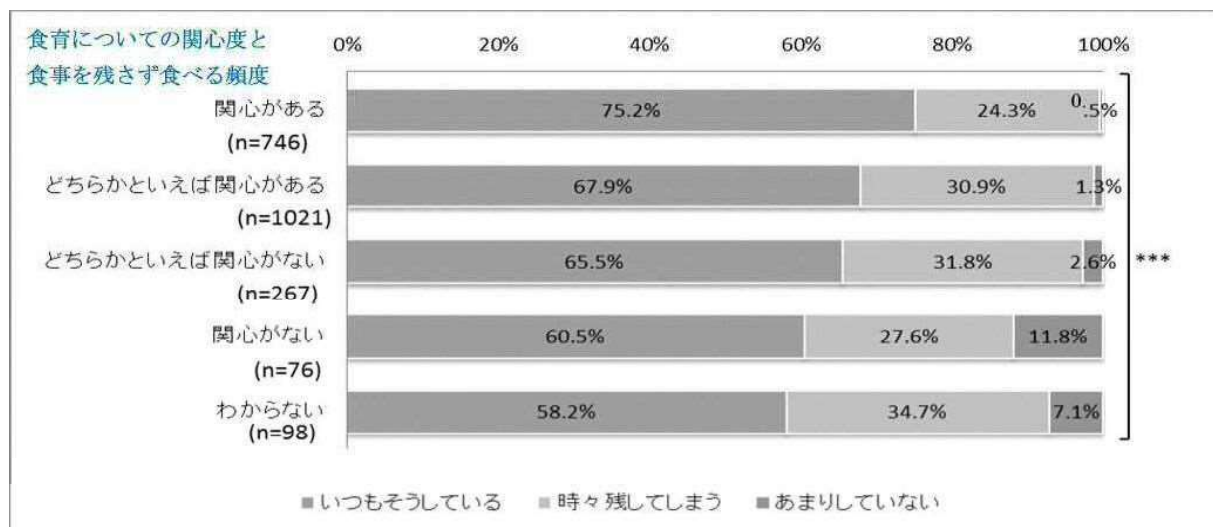
9) 食育への関心と伝統的な食文化の継承

「食育に関心がある群」では、伝統的な食文化を伝えている割合が 72.6%で、「食育に関心がない群」の 42.9%に比較すると顕著な差が見られました。「食育に関心がある群」では、伝統的な食文化を継承していこうとする強い思いがあることが考えられます。



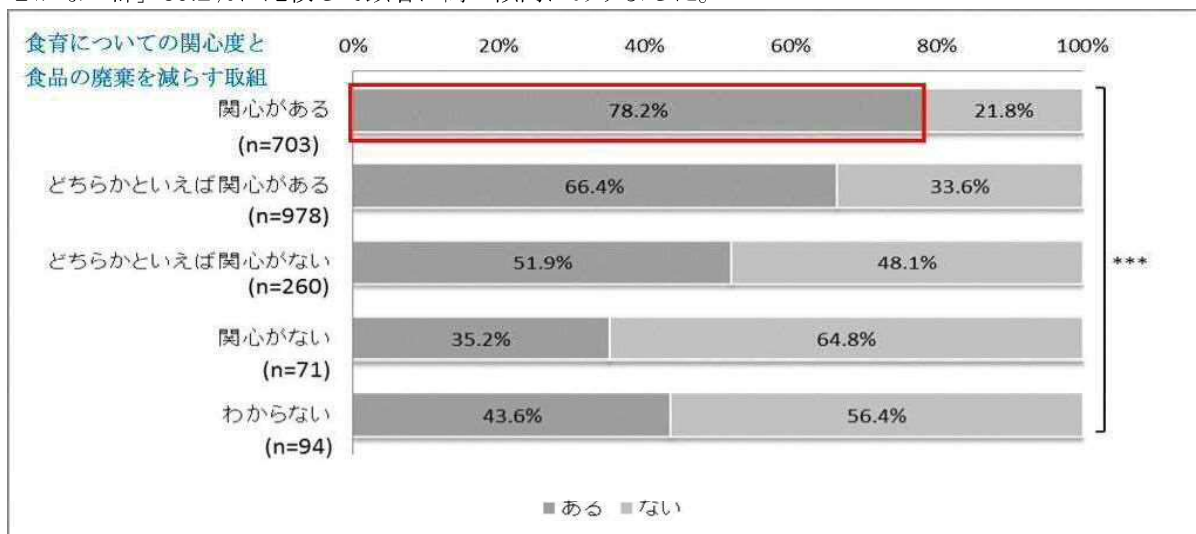
10) 食育についての関心度と食事を残さず食べる頻度

「食育に関心がある群」では、食事を残さず食べるようにしている割合が 75.2%で、「食育に関心がない群」60.5%に比較し、高いことがわかりました。



11) 食育についての関心度と食品の廃棄（生ごみ）を減らす取組

「食育に関心がある群」では食品の廃棄を減らすための取組を行っている割合が 78.2%と、「食育に関心がない群」 35.2%に比較して顕著に高い傾向にありました。



食育についての関心度との関連に関する考察

「食育に関心のある群」では、朝食を毎日食べる割合が高く（85.1%）、また、栄養バランスのとれた（主食・主菜・副菜）食事を毎日摂取している割合が、「食育に関心がない群」に比較し、顕著に高い（46.5%）結果となりました。さらに「食育について関心がある群」では、1日に 350g 以上の野菜（推奨量以上の野菜）を摂取している割合が「食育に関心がない群」に比べ有意に高い結果となりました。食育に関心がある人は、朝食摂取の重要性や、栄養バランスのとれた食事の重要性を、野菜の摂取に関しては、推奨量以上の野菜量が「1日 350g 以上」であることを認知している可能性が高いことが考えられます。さらに、野菜の身体への効能についても知っている可能性が高いと考えます。また、適正食塩量の摂取においても「食育に関心がある群」（70.1%）では、「食育に関心がない群」（15.6%）に比較し、有意に認知度が高いことがわかりました。このことは、食育に関心をもってもらうことの必要性を強く感じる結果となりました。地産地消の取り組み状況についても、「食育に関心がある群」が「食育に関心がない群」に比較し、北九州市内産や福岡県内産の食品を購入しようとする傾向が強く見られました。行事食や、伝統的な食文化の継承に関しても、「食育に関心がある群」の方が、「食育に関心がない群」よりも食文化の重要性を認識している人が多いこともわかりました。さらには食事を残さず食べることや食品の廃棄（生ごみ）を減らす取り組みにおいても、食育への関心と強いつながりがあることがわかりました。

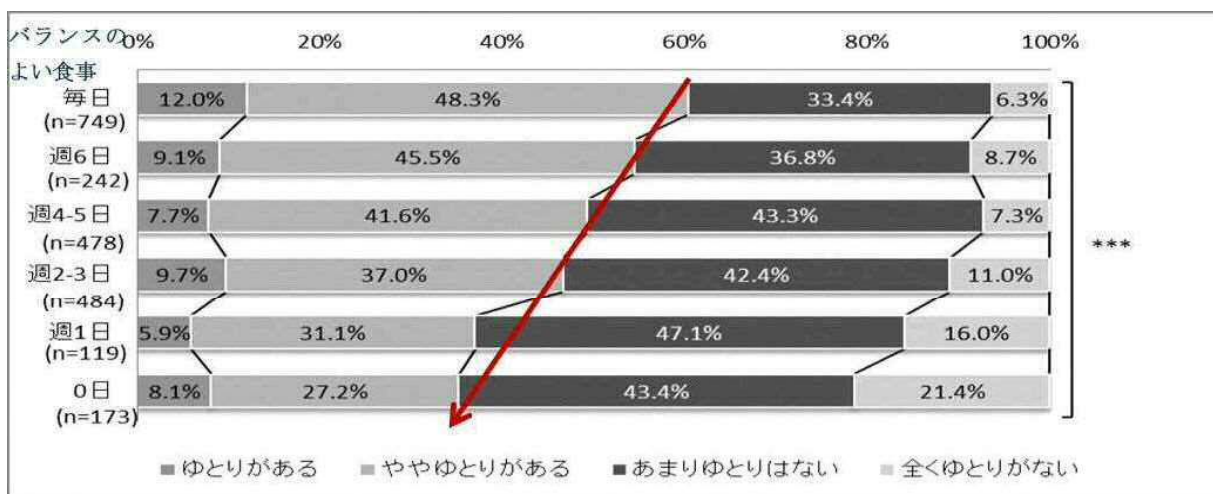
本市では「食育に関心がある者の割合」を平成 30 年度の目標値として、90%以上（20 歳以上）と設定しています。今回の調査（現状値）では、食育に関心がある者（「関心がある」+「どちらかといえば関心がある」）の割合は 77.9%でした。今後 90%を目標に、さまざまな食育推進活動を展開していく必要があると考えます。

2. 食事の内容との関連(クロス集計)

1日に2回以上主食・主菜・副菜をそろえて食べる(バランスのよい食事)との関係

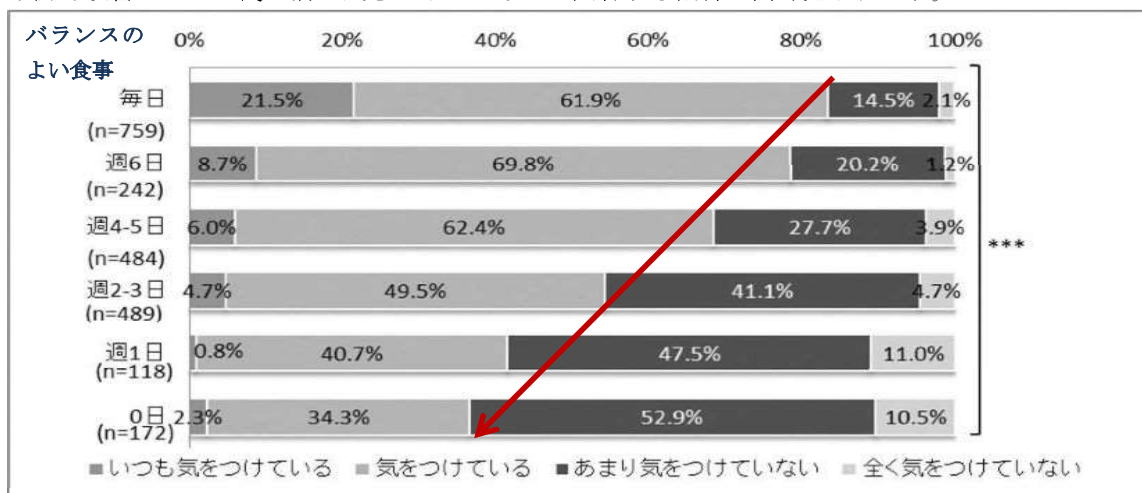
1) 暮らし向きとの関係

「暮らし向きにゆとりがある群」と「暮らし向きにややゆとりがある群」は、毎日の食事において主食・主菜・副菜を揃えたバランスのよい食事を摂取していました(それぞれ 12.0%、48.3%)。一方、バランスのよい食事をする日が少なくなるにつれて(矢印の方向)、暮らしむきにゆとりがない割合が高くなることがわかりました。



2) 生活習慣病の予防や改善に関する実践との関係

バランスのよい食事を毎日摂取している群は、生活習慣病の予防や改善にいつも気をつけており(21.5%)、一方でバランスのよい食事を摂取する日が0日の群では、生活習慣病の予防や改善にあまり気をつけない割合が52.9%と、バランスのよい食事を毎日摂取している群の14.5%に比較し、顕著な差が見られました。バランスのよい食事をする日が少なくなるにつれて(矢印の方向)、生活習慣病の予防や改善のために食生活に気をつけていないと回答する割合が高く見られます。



3. 暮らし向きとの関連(クロス集計)

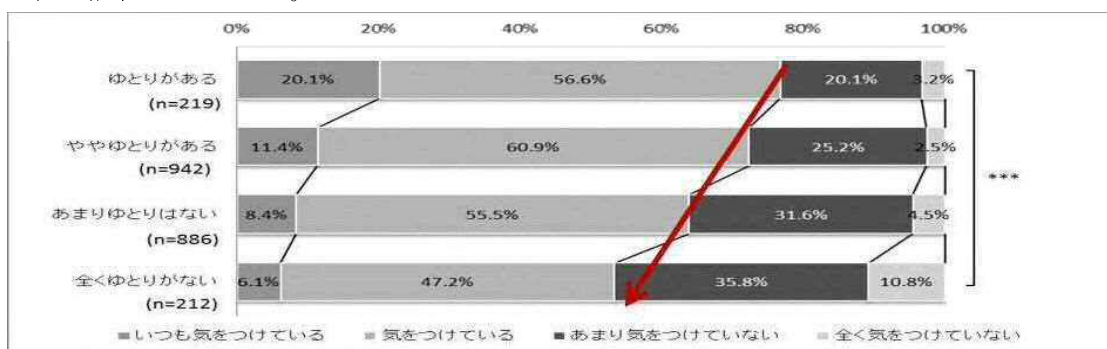
1) 350g 以上 (推奨摂取量以上) の野菜の摂取状況 と 暮らし向き

「生活にゆとりのある群」では、野菜を 350g 以上摂取している割合が 22.0%と他の群と比較し、有意に高い傾向でした。また、「生活にゆとりのない群」では 60.2%が「野菜摂取がかなり足りない」と回答しており、他の群よりも高い割合になっています。



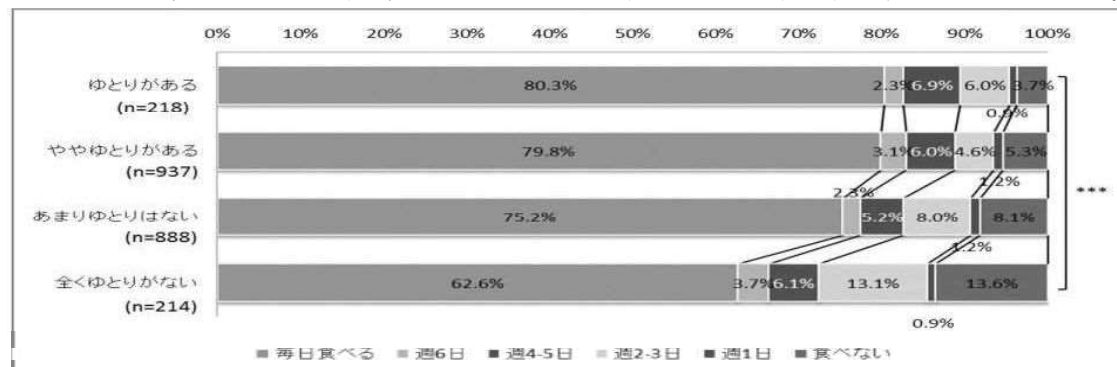
2) 生活習慣病の予防や改善に関する実践と 暮らし向き

「生活にゆとりのある群」では、他の群と比較し、生活習慣病の予防や改善に関する実践に「いつも気をつけている」割合が 20.1%と高く、生活にゆとりがなくなるにつれて「いつも気をつけている」割合が低い結果になりました。



3) 朝食の摂取状況と 暮らし向き

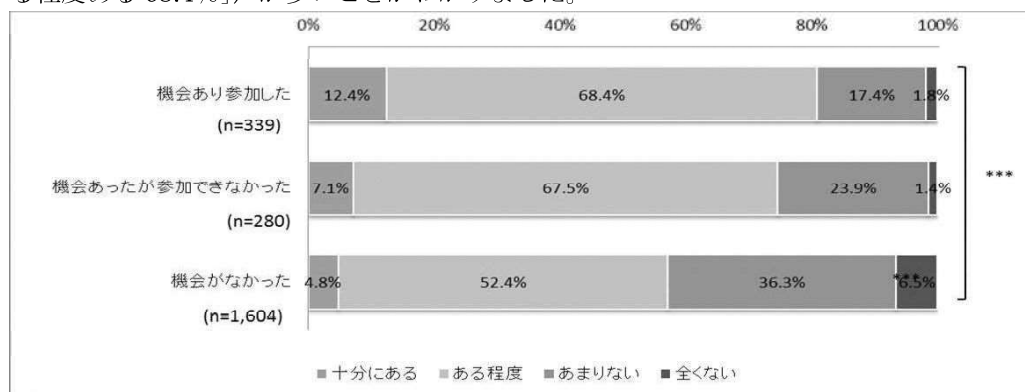
「生活にゆとりのある群」では、朝食を毎日食べる割合が 80.3%と高く、生活にゆとりがなくなるにつれて、朝食を毎日食べる割合は低下していました。一方で、「生活に全くゆとりがない群」では、朝食を週 2-3 日食べる (13.1%)、食べない (13.6%) と、他の群に比較し、顕著に高い傾向でした。



4. 学ぶ機会との関連(クロス集計)

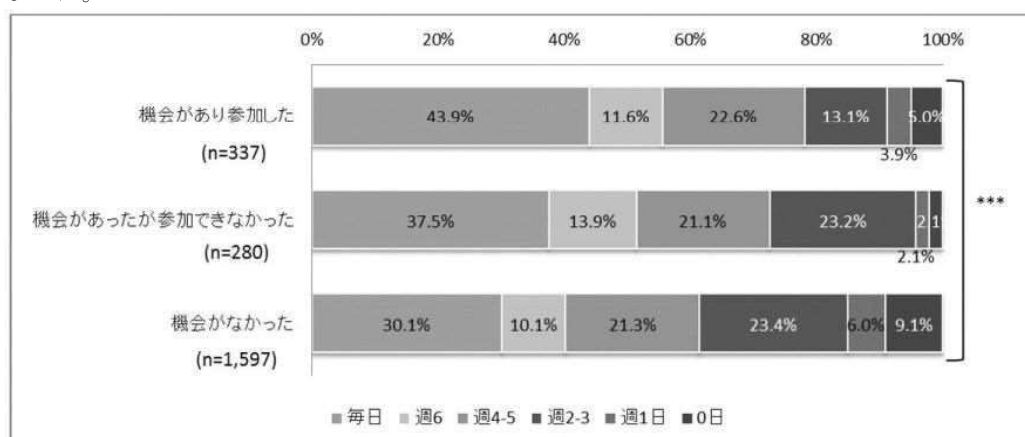
1) 食品の選択や調理に対する知識の違い

「食事を学ぶ機会があり、参加した群」では、参加しなかった群（「機会があったが参加できなかった」、「機会がなかった」）に比較し、食品の選択や調理に対する知識がある人（「十分にある 12.4%」+「ある程度 68.4%」）が多いことがわかりました。



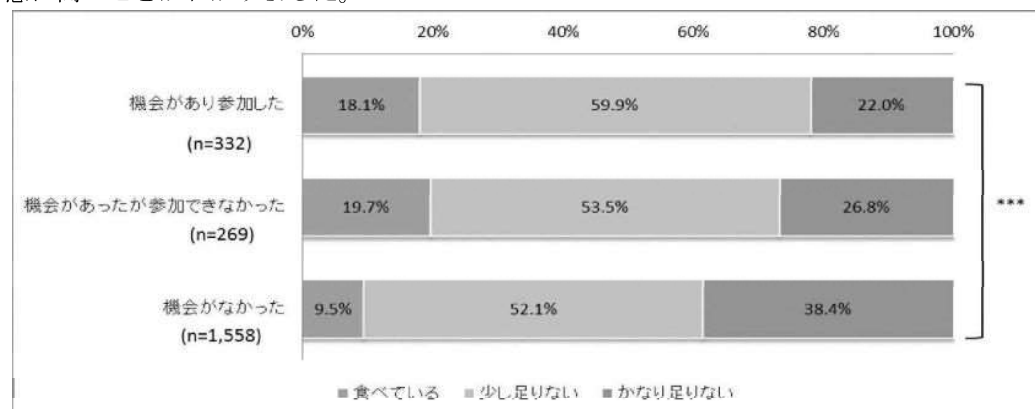
2) 主食・主菜・副菜をそろえての摂取状況

「食事を学ぶ機会があり、参加した群 43.9%」では、参加しなかった群（「機会があったが参加できなかった 37.5%」、「機会がなかった 30.1%」）に比較し、毎日バランスよく食事をしていることがわかりました。



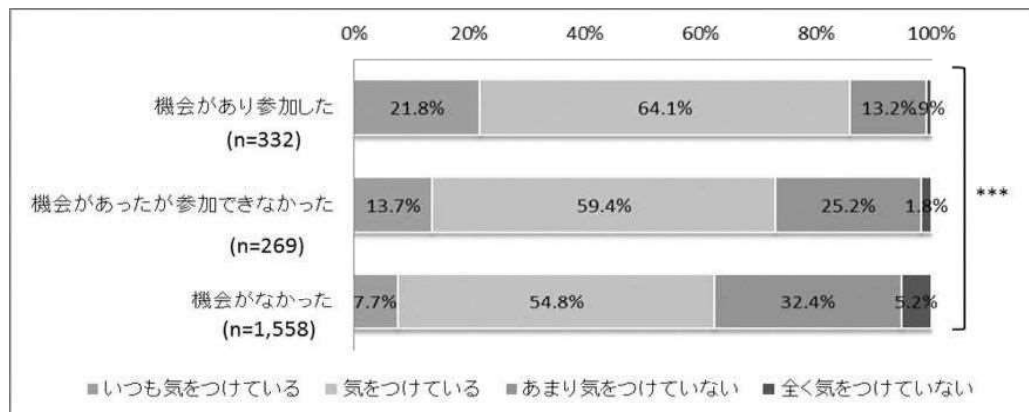
3) 野菜の摂取量 (350g 以上 (推奨量以上) の野菜の摂取) の違い

「食事を学ぶ機会がなかった群」では、野菜の摂取量がかなり足りない割合が 38.4%と他の群に比べ有意に高いことがわかりました。



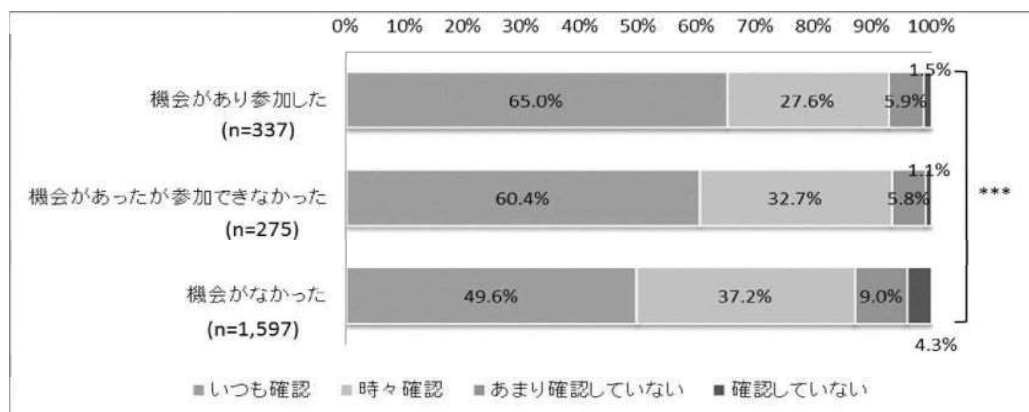
4) 生活習慣病の予防や改善の実践の違い

「食事を学ぶ機会があり、参加した群」では、参加しなかった群（「機会があったが参加できなかった群」、「機会がなかった群」）に比較し、生活習慣病の予防や改善にいつも気をつけている割合が 21.8% と有意に高いことがわかりました。逆に「機会がなかった群」では、生活習慣病の予防や改善のために、あまり気をつけていない（32.4%）、全く気をつけていない（5.2%）と顕著に高い傾向でした。



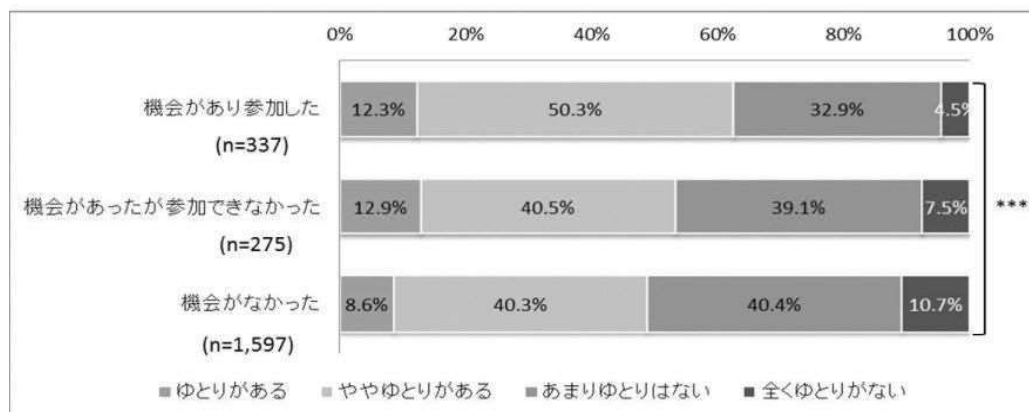
5) 食品表示の確認

「食事を学ぶ機会があり、参加した群」では、食品表示をいつも確認している割合が 65% と高く、「機会がなかった群 49.6%」と比較すると有意に高い結果となりました。食事を学ぶ機会があり参加した人は、食品表示に関して、いつも確認していることがわかりました。



6) 暮らし向きの違い

「学ぶ機会があり参加した群」は暮らし向きにゆとりがある人が 12.3%、ややゆとりのある割合が 50.3% と高く、「食事を学ぶ機会がなかった群」は、暮らし向きにゆとりがある人が 8.6%、ややゆとりのある割合が 40.3% と「学ぶ機会があり参加した群」に比べ、有意に低いことがわかりました。

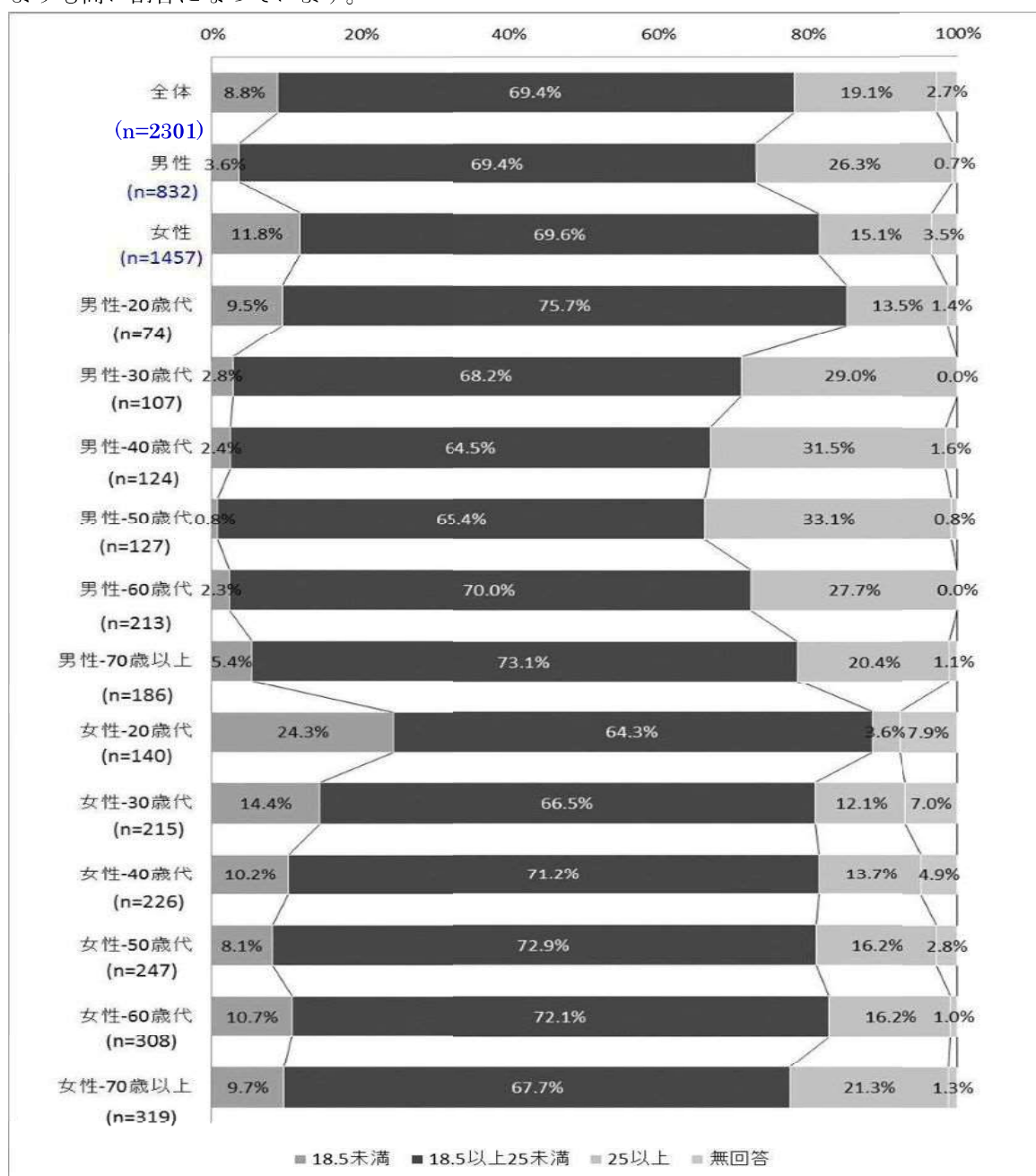


5. BMIとの関連(クロス集計)

対象者のBMIをBMI3区分(やせ BMI<18.5(やせ群)、ふつう 18.5≤BMI<25(普通体型群)、肥満 BMI25≤(肥満群))に分類し、解析に使用しました。

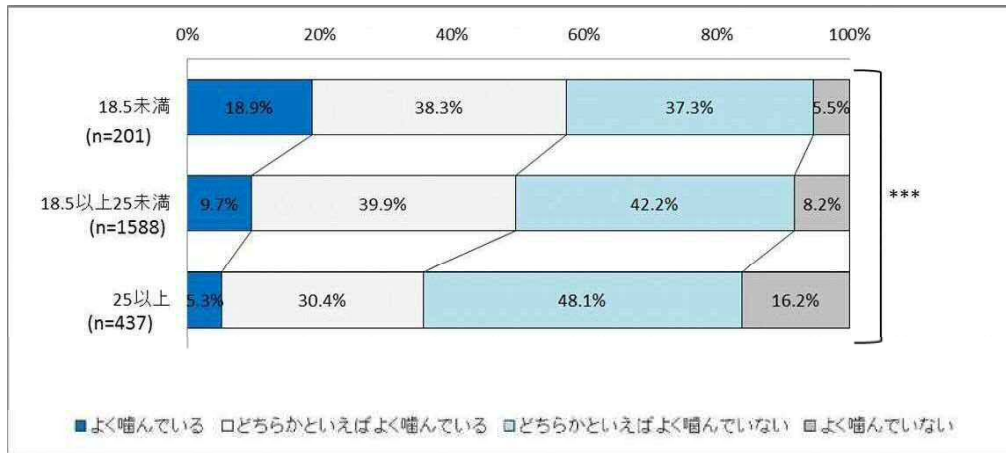
BMIの割合

やせ群(BMI<18.5)は8.8%、普通体型群(18.5≤BMI<25)は69.4%、肥満群(BMI25≤)は19.1%の割合でした。男性は40歳代(31.5%)および50歳代(33.1%)で肥満群の割合が高く、女性は20歳代でやせの割合が高い(24.3%)結果となりました。この結果は平成28年度国民健康栄養調査結果の男性の肥満者の割合と同水準を示し、20歳代女性のやせの割合は、全国の20.1%よりも高い割合になっています。



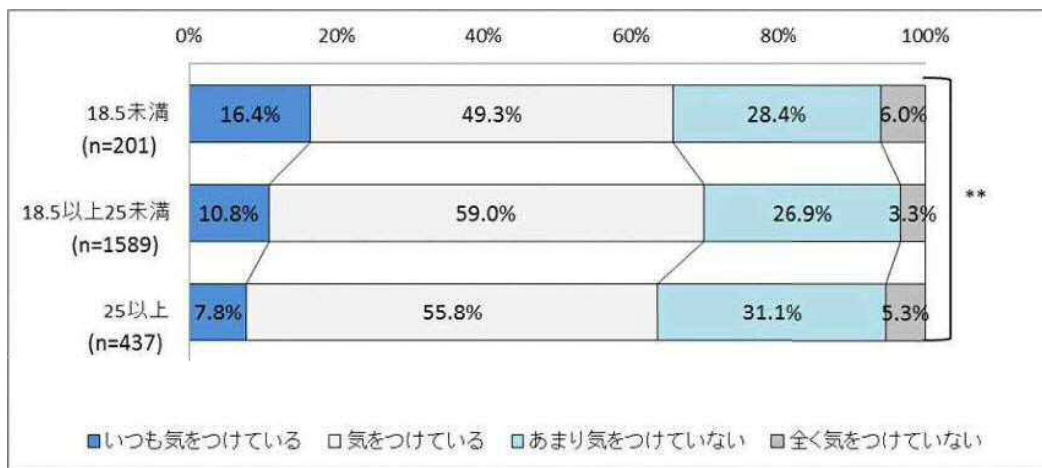
1) ゆっくりよく噛んで食べているか

「やせ群」では、他の群に比較してよく噛んで食べている傾向（18.9%）にありました。一方で「肥満群」ではよく噛まないと回答した割合が16.2%と、他の群に比較し、有意に高い傾向でした。



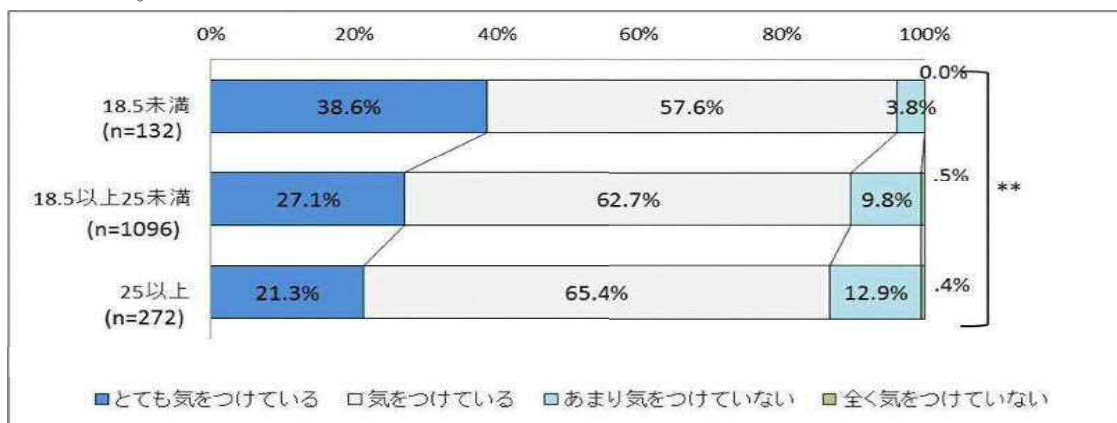
2) 生活習慣病の予防や改善

「やせ群」では生活習慣病の予防や改善にいつも気をつけている割合が16.4%と、他の群より高い傾向でした。



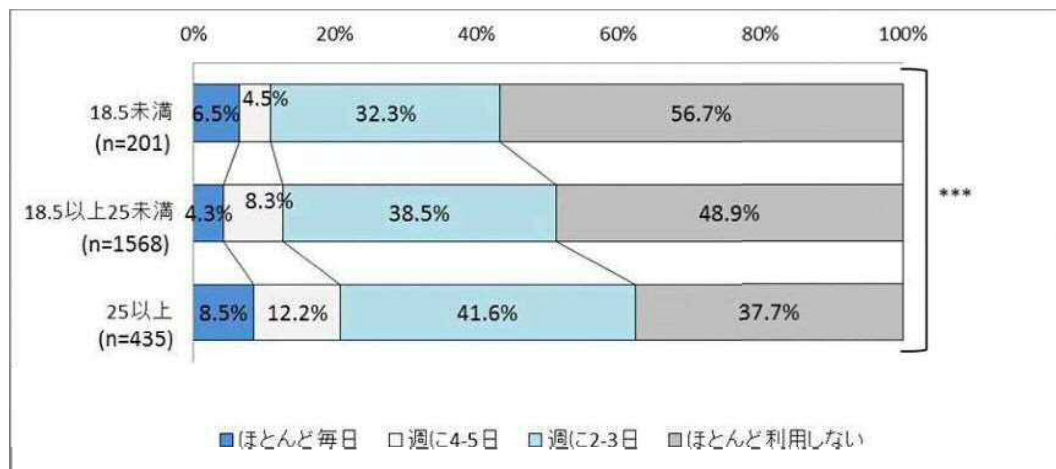
3) 野菜の摂取

「やせ群」では、野菜をたくさん摂取することを心掛けている割合が38.6%と他の群よりも高い傾向にありました。



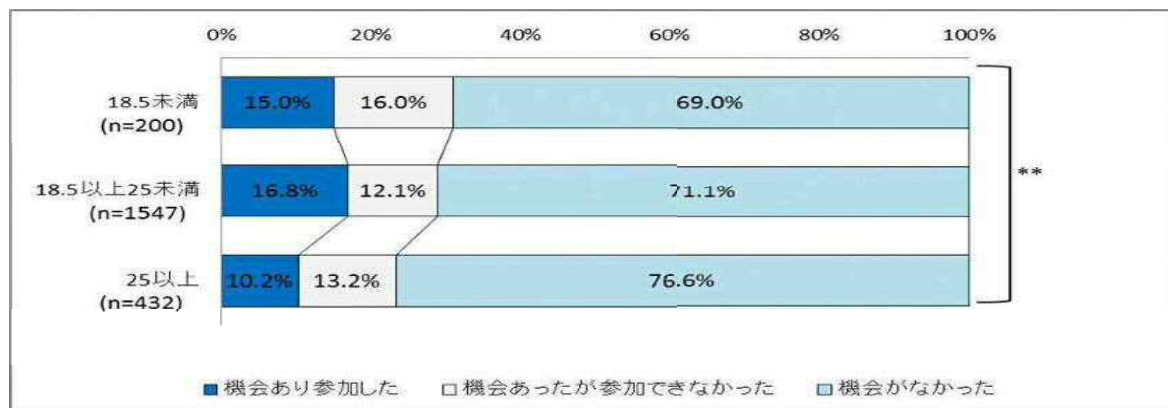
4) 外食・中食の摂取

「やせ群」では外食や中食をほとんど利用しないという回答が 56.7%であり、他の群よりも有意に高い傾向にありました。



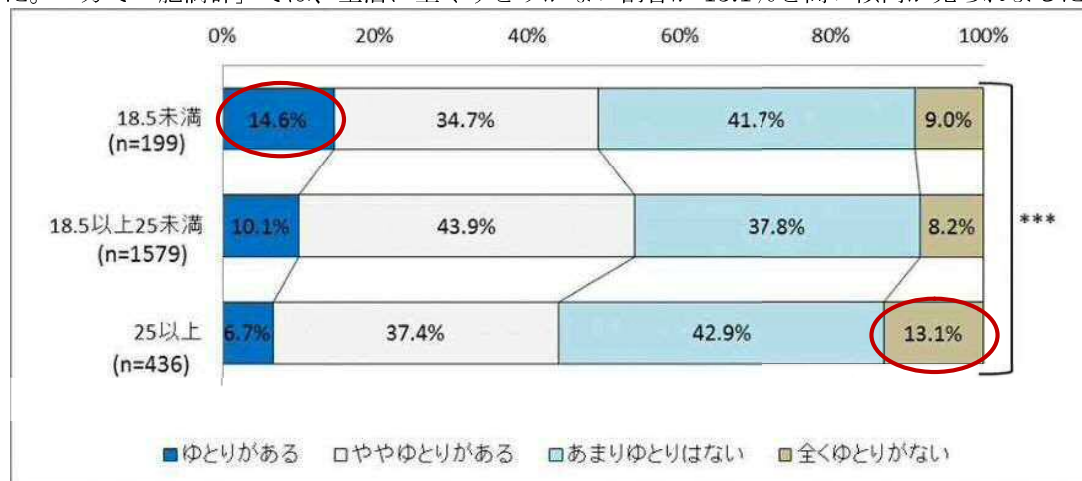
5) 食事のことを学ぶ機会

「肥満群」では食事のことを学ぶ機会がなかった (76.6%) との回答が他の群と比較し高い傾向にありました。



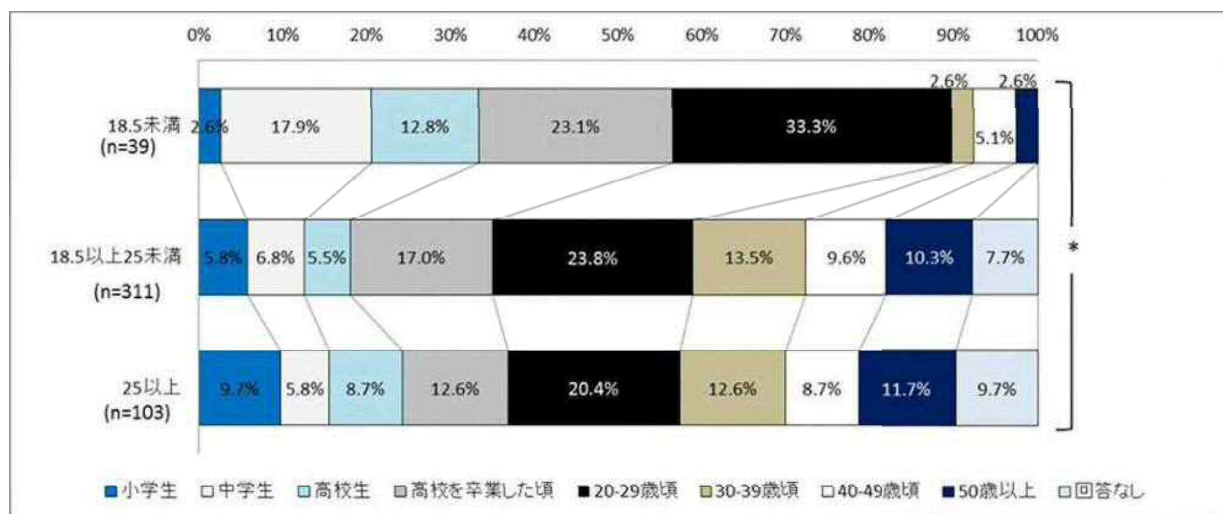
6) 暮らし向き

「やせ群」では、他の群と比較し、ゆとりがある生活を送っている人が多い (14.6%) 傾向にありました。一方で「肥満群」では、生活に全くゆとりがない割合が 13.1%と高い傾向が見られました。



7) 朝食の欠食開始時期

「やせ群」では、20代で朝食欠食が始まった割合が高く（33.3%）、「肥満群」では、小学生の時から朝食を欠食している（9.7%）割合が多く見られました。



6. 夕食の摂取時間帯と朝食摂取の関連(クロス集計)

夕食の摂食時間が「午後7時前の群」では、「毎日朝食を摂取する」(87.1%) 割合が顕著に高い傾向でした。また、夕食の摂取時間が遅い群では、朝食の欠食率が高い結果でした。

